

## 特集 知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究

### 平成20年度～21年度専門研究B

#### 研究代表者 菊地一文

「初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)平成11年12月16日中央教育審議会」以降、キャリア教育に関連した様々な施策が進められ、教育改革の重点行動計画に位置付けられた。その流れを受けて平成21年3月に告示された、特別支援学校高等部学習指導要領総則では、「職業教育に関して配慮すべき事項」及び「教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項」に「キャリア教育」の文言が位置付けられ、その推進が示された。これらのことを受け、特別支援教育関係雑誌において「キャリア教育」の特集が組まれたり、研究課題に「キャリア教育」を採り上げる特別支援学校が増加したりしており、特別支援教育においてもキャリア教育への注目が急速に高まってきている。

また、全国特別支援学校長会が実施している全国特別支援学校実態調査(2010)では、「本校の特色、本年度の課題」欄において、全国特別支援学校知的障害教育校長会加盟校676校中72校が「キャリア教育」を、189校が「進路指導」「職業教育」を挙げており、これらを合計すると全加盟校の38.6%となる。前年度と比較しても「キャリア教育」を挙げている学校は倍増しており、特に知的障害教育において注目度が高いということが実態調査からも確認できる。

従来から知的障害教育をはじめ、特別支援教育においては、自立と社会参加を目指した取組が進められてきた経緯があるが、これを機に改めて児童生徒一人一人の生涯にわたる様々な役割の充実とキャリア発達を支援する必要性から、学校全体で組織的にキャリア教育に取り組み、家庭や関係機関との連携・協働のもと、推進することが求められている。しかしながら、キャリア教育の推進上の課題として、学校現場におけるキャリア教育の意義の共有理解や実践イメージの具体化等が挙げられる。

そこで、平成20～21年度専門研究B「知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究」(以下、本研究とする)では、複数ある「キャリア」概念の中で、より包括的な捉え方であるSuper(1980)の示した「ライフキャリア」の視点に基づき、前研究においてキャリア教育推進のための枠組みの例として提案した、知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表(試案)」(国立特別支援教育総合研究所,2008)(以下、前試案(2008)とする)について検証及び改訂を行い、具体的な指導事例等を明記した新たな解説を作成し、提案した。また、Marland(1971)の提言した、本来のキャリア教育の意義である「教育課程等の改善」の視点を踏まえ、教育活動を見直し、具体的な作業を進めるためのツールを開発した。そしてこれらを研究協力機関等において試行し、その取組を実践モデルとして提案した。

本特集では、本研究において得られた、これらの知見や研究成果について、1.「特別支援教育におけるキャリア教育の意義と知的障害のある児童生徒の『キャリアプランニング・マトリックス(試案)』作成の経緯」、2.「米国における知的障害のある子どものキャリア教育の動向と日本への示唆」、3.「キャリア教育の視点による教育課程及び授業の改善・充実を図るためのツールの開発と試行」、4.「キャリア教育の視点による個別の教育支援計画における『本人の願い』の把握及び支援の充実を図るためのツールの開発と試行」の4論文にまとめた。

第1論文では、我が国において通常の教育の側から導入された「キャリア教育」について、その本来的意義を改めて確認するとともに、知的障害教育が従来から重視してきた部分との関連について論考する。また、

キャリア教育で重視している「能力観」である，competency-based の考えについて概説し，知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」作成の経緯及び留意点等について解説する。

また，本研究では研究内容の一つとしてキャリア教育の概念整理が必要と考え，国内外のキャリア教育に関する文献研究を進めてきた。これらの知見を踏まえた第2論文では，キャリア教育が始まったとされるマーランドのスピーチ（1971）以降のアメリカにおけるキャリア教育の動向を概観しつつ，キャリア教育の重要なキーワードである「自己決定」等についての研究知見を紹介する。そして我が国におけるキャリア教育の定義と関連づけながら，一般的に捉えられていると推測される「キャリア教育」，「職業教育」の概念やその相違等について整理する。

第3，第4論文では，学校現場におけるキャリア教育の推進及びキャリア教育の視点による教育活動の見直しのための具体的かつ実際の作業として提案した，①キャリア教育の視点による教育課程及び授業の分析と改善，②個別の教育支援計画における「本人の願い」の把握と支援の充実を目的として開発したツールの概要と，研究協力機関をはじめとする特別支援学校（知的障害）等における活用例等について報告する。

これら4つの論文のうち，第1，第2論文は，本研究における理論的研究として位置付く。また，第3，第4論文は実践的研究として位置付き，キャリア教育の視点による特別支援教育の充実に向けての具体的作業の提案でもある。以上，4論文を通して本研究を通して得られた知見について報告し，今後の知的障害教育におけるキャリア教育の推進及び充実に関する展望について述べる。